

ふるさと兵庫・山の魅力・山への誘い シンポジウム

楽しみ方は「無限大」

▲パネリスト▲
 岡田真美子・兵庫県立大教授
 梶浦 正教・兵庫県山岳連盟参与
 牧 慎太郎・兵庫県企画県民部長
 寄川 靖宏・しそく観光協会会長

▲コーディネーター▲
 増野 俊則・神戸新聞論説委員長

▲パネル討議▲
 増野 兵庫百山は、いかに
 な物語があるはず。まず、選定の
 経緯について紹介してほしい。

梶浦 十年前、山岳連盟十
 周年で五十山を選んだ。その
 六十周年の記念事業として、県
 神戶新聞社、郷土振興調査会と
 協力して百山を選定した。選
 定は、現場には山岳連盟が入り、
 地元の方から意見を吸い上げな
 がら選んだ。

寄川 高き山は、登山者な
 く登って楽しむ山道がある。
 それだけ。ただ、広く全県か
 ら選ぼうとしたが、どうしても
 山国の但馬や播磨北部、六甲山

六甲山や水ノ山など、優れた眺望も植生の豊かさを誇る山々が「あ
 る」と兵庫百山に選ばれた。あつちの山を地域資源として再発
 見し、さまざまな楽しみ方が期待されている。選定記念のシンポ
 ジウム「あつちの山」の魅力を、山への誘いが三月十四日、六甲
 市の生涯学習センター学遊館で開かれた。登山家の田部淳子さんが
 基調講演で世界の名峰に挑んだ経験を紹介。パネル討議では、「兵庫
 百山」の選定にかかわった登山家や有識者五人が、あつちの山の
 魅力を次世代にどう伝え、残していくかを話し合った。



たべい・じゅんこ 1939
 年、福島県生まれ。山岳環境
 保護団体「日本ヒマラヤン・
 アドベンチャー・トラスト」
 代表。女性として世界初の
 エベレスト登頂、7大陸最
 高峰登頂者。2000年、エベ
 レストのごみ問題をテーマ
 に、九州大学大学院比較社
 会文化研究科修士課程を修
 了。代表的な著書に「山から
 の贈り物」などがある。

世界の山々をめざして、登山を楽しむために

■ 基調講演 ■

七大陸の最高峰を登ったと紹
 介されるが、最高峰は「かた
 ずく」質問を受ける。五大陸まで
 は誰も文句がない。
 マリアはエベレスト。ネパ
 ル側からはサガルマータ、中国
 側から登るときは、チベット
 マン、環境を壊した山は、その
 国独自の名を持っている。

登山家

田部井 淳子氏

「体のケア」を心掛けよう

ヨーロッパ大陸は二説に分か
 れる。フランスのモンブランが
 旧ソ連圏でヨーロッパ圏が広
 がり、カスピ海と黒海との間に
 あるエルブルス。わたしは向
 方登っているからどちらに転ん
 でもいい。おもしろい話だ。
 エベレスト登頂の後、人が行
 かないところに行きたいと思
 い、ニューギニアに興味を持っ
 た。西ノラン側では、小さな
 飛行機をチャーターし、イラガ
 という小さな村に着陸した。現
 地人は裸で、筋肉の付き
 方の美しさに、中年の一番のお
 しゃれは、いかに鍛えられた肉
 体を持つかだと思った。
 山に向かうため、現地ガイド
 は泥沼のジャングルの中を、す
 いすい歩いていく。カシッ
 カシッと足指五本で地面をつか
 むように。そのように足指の「離
 開運動」ができる。一歩一歩
 の条件が違えば歩き方は有利。
 ハネとなって衝撃を吸収し、ひ
 ぎ、腰の負担を和らげる。体に
 無駄な部分はないと感じた。
 人間の最大の特徴は二本足で
 長時間歩けること。それを生か
 せるのが山歩き。靴選びが大切
 で、特に日替り履き靴は足
 の特徴を調べてもって選ぶこ
 とが、健康のポイント。
 足のケアも大切。標高六千七
 百では、手足が冷たくて寝る
 れない。指のマッサージやひき
 裏などのリンパを刺激すると、
 疲れが取れる。ハンカチを足
 指でたたく寄せるのも運動にな
 る。量が多すぎるとは完歩へき
 ことから高齢化社会。元気で
 長生きし、好きなことを続ける
 ため、体のケアを心掛けてほし
 い。

一九九二年、南極に行った。
 日本人五人と来、仏や五カ国
 で登山隊を結成し、飛行機をチ
 ャーターした。一人三百五十万
 円費したが、生きていけること
 に見られたことで、決して弱
 はななかった水の厚さが二千。
 存在感がすごい。見渡す限りの
 大氷原。その風景の美しさに生
 かされていると思った。汚して

目標があれば登る励みに



梶浦 正教氏

周辺、多紀アルプスあたりは集
 中した方がいいがある。
 牧 地方のことは東京について
 も分からない。また、兵庫県の
 ことを知ろうと思えば、県庁に
 いるだけでは分からない。兵庫
 は三分の二が山。全国の自治体
 を移動する中、現地を見ながら
 地域の問題は分かる。思
 い、率先して百山に登る。登山
 ライフワークにしていく。県は
 都市と農山村の交流、中高年の
 健康づくりの力を入れている
 が、それには山に登ってもいい
 のがよい。
 参考にしたのは四国の八十八
 ヶ所巡りで、目標があるからど
 ろも

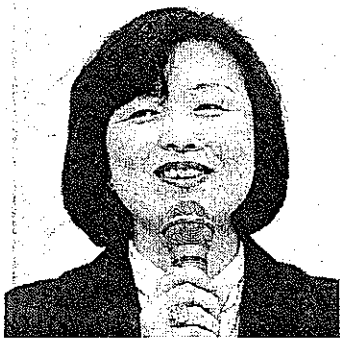
「山は人健やかに」体感



寄川 靖宏氏

んな巡る。百山という目標を立
 てると、大きな励みになる
 と考えた。趣味と実益を兼ね
 選定に携わらせてもらった。
 増野 四人ともそれぞれ山に
 かわりが深い。山に登る魅力
 はいろいろある。あつちの山
 西田 この中で一番山のこと
 知らないのはわたしだ。百
 山のうち六つしか登っていな
 い。自分は誘ってでも行って山に
 登り、劇的に変化した人間。半
 年でスリムになった。息も影
 響を受けた。決してタイエット
 しようと思ってたわけではなく

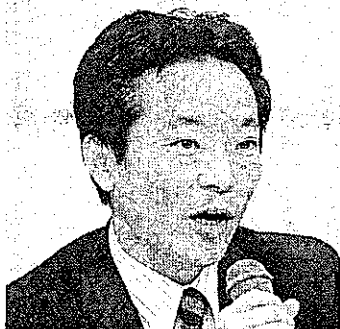
自然の不思議さ感じて



岡田 真美子氏

山に行く体力が欲しいと思っ
 て一生懸命歩いた結果、親子で劇
 的に変わることができた。
 山は人を健やかにする。大人
 にする、男をあげる、女をあげ
 る。登山を始めて、二十三年前
 にドイツで買ったカバンが入る
 ようになった。山行きの魅力を
 満喫している。
 梶浦 兵庫は、日本海側から
 淡路島まで奥山が多い。最高峰
 水ノ山にはまだ雪が残ってい
 る。淡路の山では今シーズンも
 う終ってしまいました。南と北で
 は山の植物、動物が違う。多様
 性が最大のおもしろいところ。
 そういふのを教えてあげると、
 がおもしろい。
 水ノ山には樹齢三百五十年ぐ
 らいのブナが林になっている
 が、根元には今カキタケが密
 生し、実がせつつか落ちて、
 芽が吹かぬ。百五十年後は
 ブナが倒れ、鼻根がすいぶん変
 わって、今カキタケが、
 山の不思議さを感じて、あつち
 と興味を持ってほしい。
 牧 ますは山に行くと、あつち
 の達成感や感動。自然との触

都会人から魅力教わる



牧 慎太郎氏

れ合いも大きな魅力であるが、
 今日では、人の交流の話を
 したい。山に登ると、知らない
 人ともあひまわります。「山
 頂の眺めはいいですか」「危
 ないところはないですか」
 と自然と会話できる。大都会の
 喧嘩では「ミニミニ」が
 断絶している。山の方が人が少
 ないのに、むしろ人の交流を生
 み出す。
 県内で一番注目される山の
 イベントは、六甲山縦走だ。
 十一月にあり、全国から四千人
 が集まる。おもしろい気持
 が素晴らしい。沿道ではホット
 レモンや甘酒のサーブもある。
 神戸市の主催だが、下山す
 れば、宝塚市民がボランティアが
 足場を出迎えてくれる。山脈を
 たどれば、賑やかな。山には
 人をつなぐ魅力もある。
 寄川 かねてより実業は「し
 そく森林王国」と言われ、登山
 を観光の目玉としていた。話
 が面白かった。しかし、
 朝起きると山が崩れている生活
 環境で長年過ごしていると、身
 近にありすぎて登山の魅力ある
 観光資源でなくなると、いやや
 抵抗があった。
 自然と親しみ、観光に生かす
 グリーンツーリズムとどう考え
 方があろうか。
 下ノ山に行き機会があり、山
 登りを観光に組み入れていた。
 都市から大勢の客を村に迎えて
 いた。また都会の人達から山の
 魅力を教わられた。都市との交
 流を進めようと、新しい山の
 魅力を発見できたと思っ
 ている。